

**渋谷に世界初※、
コモングラウンド技術体験施設をオープンイノベーション拠点に設置
～ワンランク上のリアルなオンライン体験で渋谷と遠隔地を結び、
関係人口創出や新たな働き方に関するサービス検証を行います～**

東急株式会社
株式会社COMMONGROUND

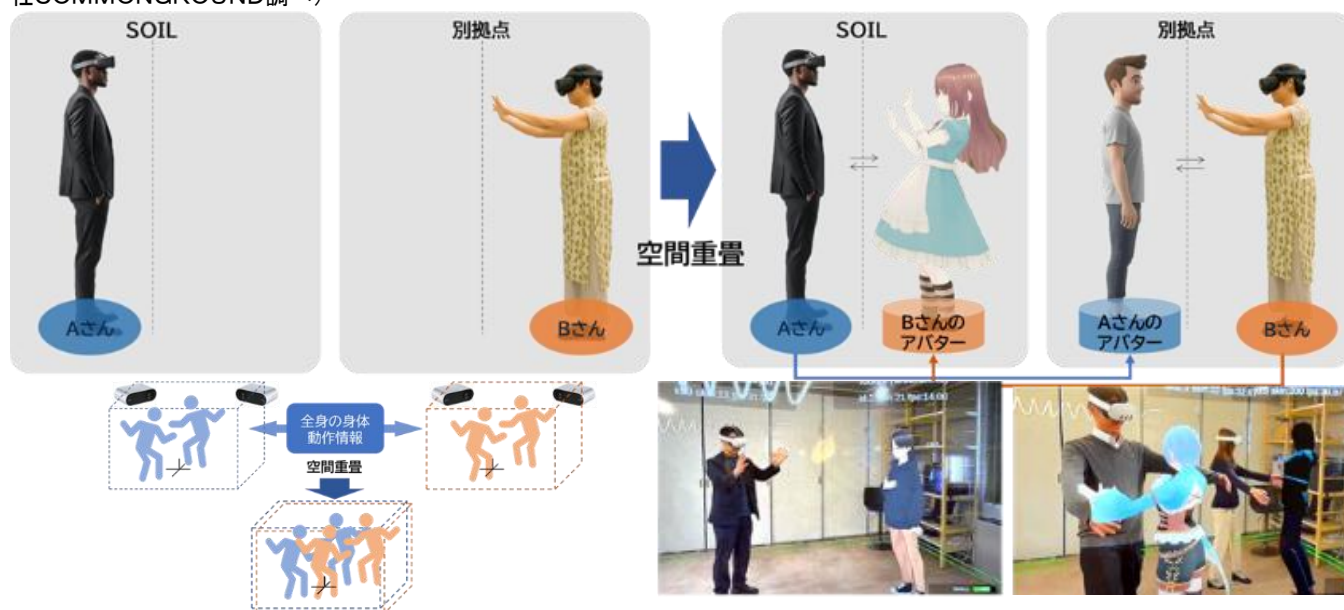
東急株式会社(以下、東急)と株式会社COMMONGROUNDは、2025年11月28日(金)から、東急が渋谷で運営するオープンイノベーションラボ「SOIL(Shibuya Open Innovation Lab、以下、SOIL)」において、東京大学生産技術研究所の豊田啓介特任教授が推進する空間技術である「コモングラウンド」の一つである「空間重畳(ちょうじょう)技術」を用いた施設を、世界で初めてオープンイノベーション拠点に設置しました。この取り組みは、都心と遠隔地をワンランク上のリアルなオンライン体験で結ぶことにより、新たな働き方や暮らし方を提案し、社会課題の解決と持続的な成長の実現を目指すものです。

「空間重畳技術」とは、ARゴーグルを装着することで、離れた場所にいる複数の人々がお互いの距離感や動きを感じながら、あたかも同じ空間にいるかのような没入型コミュニケーションができる技術です。既存のビデオ通話による画面越しのコミュニケーションとは異なり、アバターを通じてジェスチャーや立体音響を組み合わせることで、実際に目の前に相手が存在するかのような感覚を持つことができ、離れた場所を重ね合わせて交流することが可能になります。世界的にも類を見ない日本発の先端技術であり、距離や場所の制約を超えて、多様な産業における課題解決に貢献しうる技術です。

今回の取り組みは、東急が2023年に内閣府の「先端的サービスの開発・構築等に関する調査事業」へ参画し、コモングラウンド技術による人手不足対策や遠隔交流の可能性を見出したことを契機として開始に至りました。SOILを拠点として、コモングラウンド技術を活用した遠隔拠点との身体的動作を伴う研修や、アバターなどの3Dモデルを使った共同作業をはじめとしたさまざまなサービス検証を行うほか、同様の環境を導入する他の施設との接続も視野に入れ、渋谷をコモングラウンド技術による遠隔交流の主要拠点の一つとして活用検証を進めていく予定です。また、2026年1月以降、関心のある企業や行政の方々をはじめとする外部の皆さま向けに、体験デモンストレーションを順次実施する予定です。

両社は今回の取り組みを通じて、渋谷を起点としたさまざまな地域との関係人口の創出や、遠隔での働き方の高度化・多様化、遠隔教育、さらに次世代の参加型エンターテインメントなどの可能性を検証し、産業インフラの構築に貢献することを目指します。

※「拠点双方で複数人が同時に空間重畳すること」を研究機関外のオープンイノベーション拠点に設置する事例は世界初(株式会社COMMONGROUND調べ)



詳細は別紙をご覧ください。

【別紙】

■実証実験の概要について

・期間

2025年11月28日(金)～2026年3月31日(火)(予定)

・場所

SOIL(Shibuya Open Innovation Lab)(東京都渋谷区渋谷三丁目6番14号 渋谷金王第二ビル)

・検証項目

- (1)東急および連結子会社などへの活用検討
- (2)コモングラウンド関連産業の育成と次世代社会基盤構築への貢献
- (3)都市ブランド価値創出戦略

実証実験に関する問い合わせ先:株式会社COMMONGROUND

メール:tomohide.yuasa@cmmngd.com 担当:湯浅知英

■実証実験の開始に至った経緯について

東急は2023年に内閣府が実施する「先端的サービスの開発・構築等に関する調査事業」へ参画したことで、コモングラウンド技術による人手不足対策や遠隔交流の可能性を見出し、この度コモングラウンド技術の開発と社会実装を進めるため、COMMONGROUNDと共同で、SOILを拠点として社会実装に向けた実証実験を始めることとなりました。

東急は「未来に向けた美しい生活環境の創造」を掲げ、まちづくりを通じた社会課題の解決と持続的成長を目指しています。テクノロジーの進化に伴い消費や移動などの行動様式が変わりつつある中で、社会のニーズに適応したまちづくりを積極的に推進するべく、COMMONGROUNDとともに、コモングラウンド技術の発展と、都市や郊外、地方をむすぶ広域の生活基盤のさらなる価値向上を目指します。

■SOIL(Shibuya Open Innovation Lab)について

SOILは、東急が運営する社会実装に特化した招待会員制のオープンイノベーションラボです。オープンイノベーションの土壌(SOIL)として、新技術の開発、展開を目的とした国内外のスタートアップ、大企業、投資家、メディア、官公庁などのプレーヤーがつながる場を提供し、日本社会にイノベーションを興していきます。2025年4月から「渋谷金王第二ビル」に移転・リニューアルし、他企業との多様な社会実装用スペースを確保するとともに、地域に開かれた場として、地元や渋谷区と連携して先行的な取り組みやエリア価値を向上させる取り組みを実施しています。SOILは今般の移転・リニューアルを通じて、さらなるイノベーションの創出に注力していきます。

<SOIL外観>



<SOIL内観(Creative Room)>



■コモングラウンド技術の将来展望について

空間重畳体験においては、現状主要なユーザーインターフェースであるARゴーグルが今後スマートグラスなどに進化することで、より多くの人により手軽に空間重畳を活用できるようになります。さらに、ARゴーグルなどのデバイスが進化していく中でも、建物や施設、都市などの屋内外を含めた環境側にその実装環境を整備していくことで、新たな社会インフラの実現を目指します。

また、コモングラウンドは、人々の日常的なコミュニケーションで活用される複数人間での相互作用を伴った身体情報(行為空間データ)が汎用かつ日常的に大量に取得できるようになることで、LLM(Large Language Model)といった現在さまざまなサービスが普及しつつある言語ベースの生成AI開発の先に必要とされる、動的空間ベースの生成AIであるLBM(Large Behavior Model)の開発・実証と基盤を提供し、次世代の社会基盤構築にも貢献することが期待されている技術です。人間の表層的な行為内容のみではなく、行為の文脈・背景的理解など行為の意図までもが推定可能なAIを開発し、シーンおよび行為意図に関する推定結果をロボットに伝達することで、ロボットのより能動的な人とのコミュニケーションを可能にし、ヒトと多様なロボットの協調連携環境を提供し豊かな社会の実現を目指します。

【参考】

■東急株式会社

設立:1922年9月

代表者:代表取締役社長 堀江 正博

所在地:東京都渋谷区南平台町5番6号

事業内容:不動産賃貸業、不動産販売業、その他事業

公式サイト:<https://www.tokyu.co.jp/>

“City as a Service” 構想(現在から未来へ)～リアルとデジタルの融合による次世代に向けた街づくり～東急ならではの社会価値提供による“世界が憧れる街づくり”の実現として、リアルとデジタルの融合による次世代に向けた街づくりを推進します。

参考リンク

・長期経営構想

<https://ir.tokyu.co.jp/ja/ir/management/lplan/main/0/teaserItems1/00/linkList/0/link/lplan.p>

・TOKYU GREATER SHIBUYA STRATEGY(東急グループの渋谷まちづくり戦略)

https://www.tokyu.co.jp/shibuya-redevelopment/assets/pdf/210719_factbook.pdf

■株式会社COMMONGROUND

設立:2025年1月

代表者:代表取締役CEO 湯浅 知英

顧問:豊田啓介(東京大学生産技術研究所 特任教授)

所在地:東京都品川区南品川4-17-4

事業内容:コモングラウンドに関する企画立案・コンサルティング事業、アプリケーション開発・販売・保守・リース等サービス事業、データの標準化や規格統一に関わる事業他

公式サイト:<https://cmmngd.com/>

参考リンク

・コモングラウンド コンセプトムービー

<https://youtu.be/lfD73k55IDU?si=BIBJPdGj6EGK8CIf>

※出典:コモングラウンド・リビングラボ(CGLL)

以上